

◆◆◆ 2010年夏の猛暑と熱中症

今年の夏は、東北地方から中国地方にかけ、平年より早い梅雨明けとなり、梅雨明け後、各地で猛暑が続いています。猛暑のピークは、梅雨明け後の7月20日～26日、8月1日～6日、8月16日～現在(8月24日)の3回で、この期間、多くの観測地点で日最高気温が35℃を超える猛暑日となり、8月24日まで猛暑日日数は、東京9日(平年1.9日)、大阪18日(平年8.1日)、福岡14日(平均3.8日)を記録するなど例年にない暑さが続いています。新聞・テレビ等では、連日、熱中症患者のニュースが報じられ、また、水分を十分にとるなどの熱中症に対する注意も頻繁に行われています。

熱中症患者については、消防庁が2008年(平成20年)から7～8月の期間、全国の熱中症による救急搬送者数を速報しており、今年からは、毎週水曜日に前週の熱中症患者数速報をホームページ(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)で公開し、熱中症に対する啓発活動などに役立てられています。

一方、国立環境研究所では、熱中症予防情報サイトを運用しており(<http://www.nies.go.jp/health/HeatStroke/>)、現在の猛暑の状況および今日・明日の熱中症危険度を把握するサイトとして、多くの方に利用されています(当センターでは、国立環境研究所からの委託のもと、同ページへの観測情報の提供などに協力しています)。

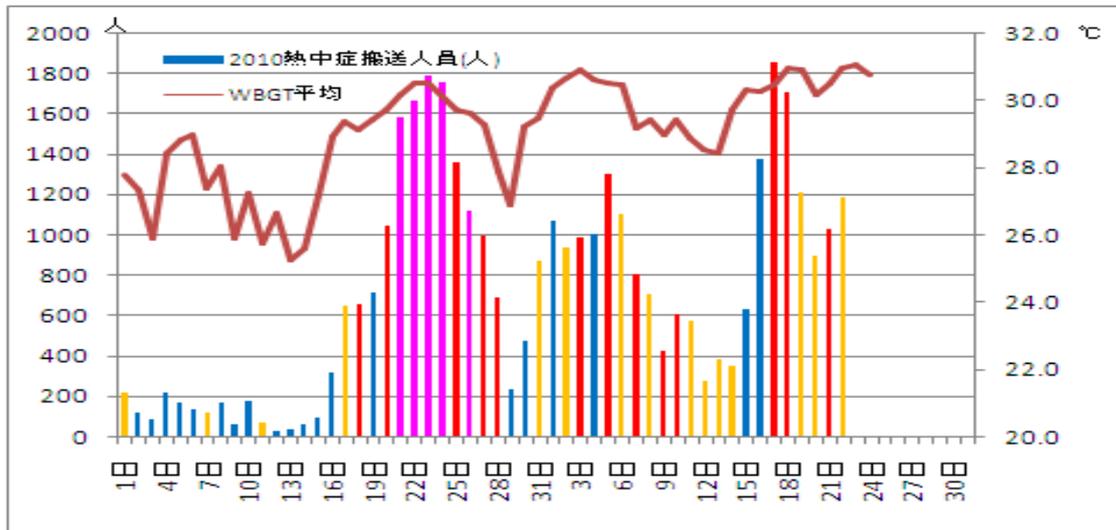


表 2010年の熱中症による救急搬送者数

表に、消防庁の熱中症による救急搬送者数速報値と、国立環境研究所の熱中症予防情報サイトで公開されている、東京・名古屋・新潟・大阪・広島・福岡の6都市平均日最高WBGT値(熱中症予防に用いられる指標)を、今年の7月1日から8月24日(救急搬送者数は22日まで)について示しました。

3波にわたる猛烈な暑さのたびに、救急搬送者数が大きく増加しており、熱中症による搬送者数が1日あたり1000人を超えた日が、すでに17日を数えます。過去2か年の日最高搬送者数の最多が831人(2008年7月25日、消防庁速報データによる)であることと比較しても、今年の夏の熱中症搬送者数がいかに多いかが良く分かります。

熱中症搬送者数が1000人を超えている期間について、消防庁の速報資料を見ると、期間中、重篤な症状の熱中症搬送者の割合が増加しており、また、搬送者に占める高齢者の割合がその他の期間よりも高くなる傾向にあることがうかがえます。新聞・テレビで連日報じられているように、高齢者は、①暑さを感じにくくなる、②発汗量・皮膚血流量(いずれも体を冷やす効果に寄与する)が低下する、③のどの渇きを感じにくくなるために、高温が継続する期間には熱中症となる危険が更に高くなるので、④のどがかわかなくても水分を補給する、⑤部屋の温度をこまめに測り、⑥高温多湿になっている場合は換気や空調により部屋の温度を下げる、が重要です。また、高齢者は暑さを感じにくくなることから、⑦周囲の方が部屋の温度に注意し換気や空調の利用を促すことも必要です(熱中症環境保健マニュアル2009より)。

関東地方が梅雨明けした7月17日以降、東京で日最高気温が30℃を下回った日（真夏日）は3日、日最低気温が25℃を下回った日（熱帯夜）はわずか2日しかなく、都市部を中心に絶え間ない暑さが続いています。少しでも気温の低い時間帯に十分な換気を行うこと、普段空調を使わない方でも空調も上手に使って部屋の温度を下げるのが、長い暑さを乗り切るためには不可欠です。

8月20日気象庁発表の1カ月長期予報では、8月21日から9月20日までの1カ月間について、気温が平年より高い確率は、東北から近畿地方で70%、北海道・中国四国・九州でも60%（通常は30%）と、厳しい残暑がまだしばらくは続く見込みで、高齢者に限らず、屋外や高温の現場で作業をされる方々、スポーツのトレーニングを行う方々などを中心に、熱中症に対する注意がまだまだ必要です。

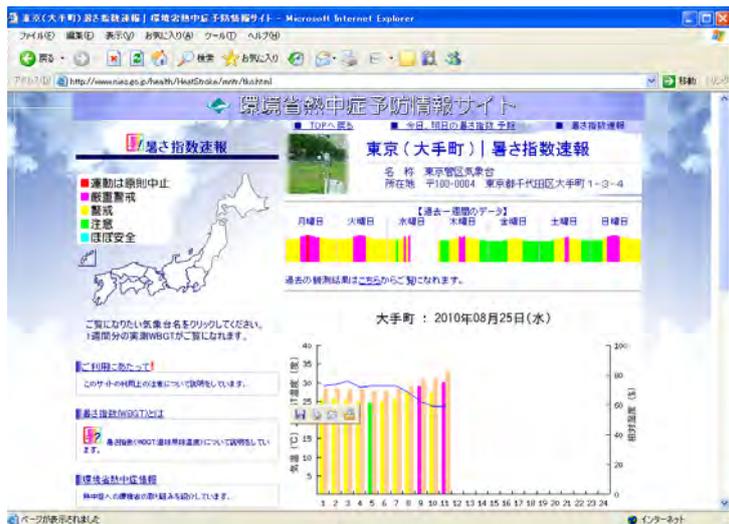


図1 熱中症予防情報サイト



熱中症予防情報サイト



熱中症予防カード

携帯向けサイトのQRコード

前述の国立環境研究所の熱中症情報サイトには、熱中症予防の指票となるWBGTについて、6都市（東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡）の観測値と今日・明日のWBGT推定値が掲載されており（図1）、熱中症環境保健マニュアルには、熱中症に対する幅広い知識が掲載されています（http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.html）。

また、一部の情報は携帯電話でも利用できる（右上のQRコード参照）、外出の際にはこれらの情報も利用いただき、長く厳しい残暑を安全にお過ごしいただきたいと思います。

WBGTとは…人体の熱収支に影響の大きい湿度、輻射熱、気温の3つを取り入れた指標で、乾球温度、湿球温度、黒球温度の値を使って計算する。

※WBGT（湿球黒球温度）の算出方法

屋外：WBGT = 0.7×湿球温度+0.2×黒球温度+0.1×乾球温度

屋内：WBGT = 0.7×湿球温度+0.3×黒球温度

（環境省熱中症予防情報サイトより）

（財団法人気象業務支援センター振興部長代理 登内道彦）